

特定非営利活動法人
トチギ環境未来基地

平成 29 年度

(平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日)

事業計画書

数値目標

ボランティアの数	2,500人
整備面積	竹林 3ha 里山 9.1ha
寄付額	2,500,000円
年度末会員数	100人



平成 29 年度 重要方針

設立から 8 年目を迎え既存の事業における多様なボランティアを受け入れ、質の高い環境保全活動のさらなる充実を図るほか、他団体と連携し Conservation Corps の普及に本格的に取り組む。
平成 29 年度は以下を重要方針とし業務を行う。

1. 新規：プログラムの関連性の明確化。それぞれのプログラムに適切な参加者を得られる仕組みに。

これまでは Conservation Corps プログラムを事業の柱として活動を展開してきたが、日帰りのプログラムやグループとの活動も充実してきた。それに伴い、各プログラムの位置づけや役割をより明確化し、作業の遂行においては全てのプログラムを連動させながら効果的に取り組む必要がある。Conservation Corps プログラムはそのプログラムの意義や位置づけをより明確にする。プログラムの効果を高めるために期間の変更（6 ヶ月プログラム）も検討し準備する。

2. 継続：森づくり×社会課題をさらに形に。H29 は「みどりの中間的就労訓練」をスタート。

森林をこれからも守り、育てていくためには、森林の持つ、経済的価値、公益的な価値を高めることに加えて、周辺領域でできることを形にし、付加価値を高めていくことが重要になる。森林を切り口とした社会的課題の改善や、森林とつながりが薄かった人を森と上手につなぐような活動を切り拓いていく。平成 29 年度は、森づくりと就労支援のより具体的な形として、みどりの中間的就労訓練を確立し、森で少額のお金を生み出しながら訓練の機会を作ることに力をいれる。

3. 継続：会員の増加、100人の会員に支えられた団体を目指す

これまで会員との関わり方を一新し、会員が参加しやすい活動の充実や、会員が自主的に行える活動もつくっていく。職員がほぼすべてを企画、運営するから、職員と会員で活動をつくっていくに舵をきり、活動自体を充実させるとともに、会員増加にもつなげる。会員制度の見直しも含め、会員を増加するための方法を考え具体的に取り組む。

4. 新規：ソーシャルインパクトを目指したファンドレイジング

寄付を集めることで寄付者の意識が変わる仕組みをつくる。年間計画に基づいて、新規寄付者、継続寄付者が寄付できる仕組みをつくる。春に会員入会キャンペーン、冬に寄付キャンペーンを行い、スタッフ、ボランティアの協力も増やす。また、他団体、企業との連携のためのメニューを整理して PR できるようにする。

5. 新規：資源の棚卸しと団体のブランディング

10 年を迎えるにあたり、団体の強みと弱みを整理する。更に、協力者からの意見をくみとり、団体のブランドを明確化する。これを元に広報、プレゼン資料などを統一していく。

平成 29 年度 事業一覧

1. 若者の社会貢献活動拠点づくり事業
2. 若者のチームによる長期間の森林、自然、地域保全活動（Tochigi Conservation Corps）事業
 - ① Tochigi Conservation Corps プログラム 2017 春（第 16 期）
 - ② Tochigi Conservation Corps プログラム 2017 秋（第 17 期）
 - ③ Japan Conservation Corps Network 事務局の運営
3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業
 - ① 幼稚園や福祉施設での森づくり事業
 - ② 企業・グループボランティアの受け入れ事業
 - ③ 子どもの里山 体験プログラム事業
 - ④ 那珂川を未来へ！ 周辺の里山整備事業
 - ⑤ 県北エリアにおける森づくり活動の促進事業
4. 地域・環境活動リーダーの育成事業
 - ① 若者森づくりボランティア派遣プログラム
5. 災害からの復旧・復興に関する事業
 - ① 福島県いわき市での、海岸林再生、「苗木 for いわき」プロジェクトへの協力
6. バイオマス資源の活用推進に関する事業
 - ① 木エクラフト教室、木エクラフトを活用した応援会員の獲得
7. 若者自立支援団体との連携による、人と緑を育む森づくり事業
 - ① 若者自立支援団体の日帰り活動の企画運営（しごとや）
 - ② サポステ短期合宿プログラムの運営
 - ③ 子どもの貧困対策（日帰り）プログラム事業
 - ④ 「みどりの中間的就労訓練プログラム」創出事業
8. 国際ボランティアの受け入れを通じた、国際協力事業
 - ① インターンシッププログラムと、Gap Asian Partnership Project を通じた支援の実施
9. 若者の社会貢献に関する調査研究事業
 - ① 米国 Conservation Corps に関する調査研究報告書の制作

10. ソーシャルプロモーション事業

H29 フィールド整備方針

フィールド整備スケジュール、フィールド計画は別紙参照。

- 創造の森 (里山 面積：0.4ha)
希望の丘 (里山) (里山 面積：0.3ha)
美里学園の森・バリアフリーの森 (益子町) (里山 面積：0.7ha)
瑞穂野の森 (里山 面積：0.3ha)
竹原 (竹林) (竹林 面積：3ha)
- 市貝 サシバの里 (里山、耕作放棄地) (里山 面積：0.8ha)
市貝 青木さんの森 (里山、耕作放棄地) (里山 面積：3ha)
あさひが丘・雷電神社裏 (里山 面積：0.6ha)
竹原 (里山) (里山 面積：3ha)

1. 社会貢献活動拠点づくり事業

Conservation Corps プログラムの終了後、次のステップに向けて準備をするメンバーに、オフシーズンに明在庵を拠点として活用してもらおう。活動の場の提供や、実現したいことへのサポートもできる限り行う。

2. 若者による、森林、自然環境、地域再生活動、Tochigi Conservation Corps の実施

① Tochigi Conservation Corps プログラム 2017 春	
期 間	平成 29 年 5 月 10 日 (水) ～ 7 月 9 日 (日) 2ヶ月
目 的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。
内 容	プログラム中の活動、作業内容 1. 各フィールドの整備作業 2. 各種イベントの運営、参加 3. 学習・技術研修

参加者	全期間参加者 5人 CC参加者：アジアからのメンバーは、日本語初級も可とする 部分参加者 延べ20人（部分参加者、週末ボランティア）
場所	宇都宮市、茂木町、市貝町、益子町
事業目標と成果	各フィールドにおける、達成目標及び計画を定め、作業することの複合的な価値を高める。作業技術なども高め、より大きな成果を上げることができるように研修なども充実させていく。

② Tochigi Conservation Corps プログラム 2017 秋	
期間	平成29年9月1日（金）～11月20日（月） 3ヶ月
目的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者のチームによる長期間の環境保全活動の日本版の確立。作業の成果と若者の育成の両立を図る。日本の環境保全活動の質を高める。
内容	プログラム中の活動、作業内容 1. 各フィールドの整備作業 2. 各種イベントの運営、参加 3. 学習・技術研修
参加者	全期間参加者 5人 部分参加者 30人
場所	宇都宮市、茂木町、市貝町、益子町
事業目標と成果	各フィールドにおける、目標及び計画を定め、作業することの複合的な価値を高める。作業技術なども高め、より大きな成果を上げることができるように研修なども

③ Japan Conservation Corps Network 事務局の運営	
期間	平成29年7月～平成29年5月
目的	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者たちのチームが農山村に長期間滞在しながら森づくりや環境保全活動に取り組むプログラムのシステム化と全国への普及に取り組む
内容	プログラム中の活動、作業内容
参加者	
場所	日本国内、北海道、栃木、東京、福岡、熊本、他
事業目標と成果	米国の Conservation Corps をモデルとした、若者たちのチームが農山村に長期間滞在しながら森づくりや環境保全活動に取り組むプログラムの標準化、質

	<p>の向上が進み活動の成果がさらに高まる。</p> <p>プログラム実施団体が増え、活動の規模が拡大する。平成 28 年 3 月時点では同プログラム実施団体は全国で 4 団体であるが、2016 年に 2 団体増、2018 年までに 10 団体に拡大することを目指す。</p>
--	--

3. 自然環境の保全、再生、活用に関する事業

① 幼稚園や福祉施設での森づくり事業	
期 間	平成 29 年 4 月 ～ 平成 30 年 3 月
目 的	これから森林や里山を守っていくためには、森の整備を進めることと同時に、現代に合った形で森に価値を付加していくことが大切である。森林と福祉、森林と教育など森の役割を高める活動を形にしていく。
内 容	<p>森の中での自然体験活動、幼稚園等に出前して自然体験プログラムの実施など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造の森（秋の自然体験イベント） ・美里の森（学園祭、Green Family） ・希望の丘で学童の子どもたちと自然体験 ・サシバの里：イベントを企画
参 加 者	<p>運営は Conservation Corps 参加者を中心に。</p> <p>参加者は、幼稚園児、福祉施設利用者など</p>
場 所	創造の森、美里学園の森、希望の丘など
事業目標と成果	安定したプログラムと仕組みの開発

② 企業・グループボランティアの受け入れ	
期 間	平成 29 年 4 月 ～ 平成 30 年 3 月
目 的	<p>「誰でもできる森づくり」の枠を広げ、積極的にグループの活動を受け入れる。企業の新人研修などの研修プログラムも組み立て、新しい形での森の中での人づくり、森林ボランティア活動による人材育成に力を入れる。</p> <p>森づくりの担い手を増やすことも目指す。</p>
内 容	企業などの団体、グループの受け入れを行う。要望に応じた研修内容もプログラムに組み込む。
参 加 者	<p>作業ボランティア合宿 1 回 15 人×4 回</p> <p>① 株式会社 ホンダトレーディングボランティア（2 泊・10 人×2 回）未定</p>

	<p style="text-align: right;">新人研修（4泊・10人）9月</p> <p>② 株式会社 NTT 東日本 11月</p> <p>③ 株式会社 NTT 東日本栃木支店 秋に開催 検討中：複数社 その他、年2回受け入れる。（特に栃木県内企業へ営業）</p>
場 所	茂木町竹原地区、市貝町サシバの里、希望の丘 他
事業目標と成果	参加団体、企業の活動実施に対する期待と、森づくりの効果をバランスよくみて成果とする。研修プログラム、メニューの充実を図る。

③ 子どもの里山 体験プロジェクト事業	
期 間	平成29年4月 ～ 平成30年3月
目 的	子どもが豊かな自然で遊べる機会をつくり、森の利用者や森からの木材、実などの活用を促す。
内 容	他団体からのクラフト、体験イベント依頼による実施
参 加 者	エコハウスたかねざわ（4月22日） とちぎ学生未来創造会議（4月29日、10月検討） コンセーレ（5月3日） エコフェスタ（5月21日） 富士通小山工場イベント（10月）
場 所	茂木町竹原地区、市貝町サシバの里、希望の丘 他
事業目標と成果	参加団体、企業の活動実施に対する期待と、森づくりの効果をバランスよくみて成果とする。研修プログラム、メニューの充実を図る。

④ 那珂川を未来へ！ 周辺の里山整備事業	
期 間	平成29年4月～平成30年2月
目 的	清流那珂川を未来へつないでいくために、その周辺の里山の整備を進める。那珂川を中心に据え、支流を歩くツアーなど、里山の重要性の理解も深まるプログラムも実施する。上流の那須烏山市での整備活動も開始する。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・里山、竹林整備活動 期間中定期的に開催 ・那珂川への支流を歩くツアーの開催3～4回

参加者	☆目標 250 人以上
場 所	・茂木町竹原地区及び那須烏山市の里山、竹林
事業目標と成果	那珂川を切り口に、新しいボランティアを森づくり活動に呼び込む 寄付キャンペーンも継続し、活動資金の安定確保を図る

⑤ 県北エリアにおける森づくり活動の促進事業	
期 間	平成 29 年 4 月～平成 30 月 3 月
目 的	栃木県北の森づくりボランティア活動を発展させるために、拠点を置き、活動を強化する。
内 容	他分野を含めた一般的なボランティア活動を促進させるために、とちぎボランティアネットワークと協力して、拠点を強化するサポートを行う。
参加者	毎月。
場 所	那須塩原市、那須町、他
事業目標と成果	県北からの会員 50 人増加。 県北での森づくりフィールド 1 か所で活動をスタートさせる。
備考	とちぎボランティアネットワークと連携して行う。

4. 地域・環境活動リーダーの養成事業

① 若者森づくりボランティア派遣プログラム	
期 間	平成 29 年 4 月～平成 30 月
目 的	将来にわたり日本の豊かで美しい森林、里山を保全していくためには、森林、里山ボランティア活動の継続、発展は不可欠である。森林ボランティア団体は年々増加しているが、ボランティア参加者の 51%は 60 才以上というのが現状で、活動団体の多くは、「高齢化」、「後継者不足」の課題を抱えている。 この課題を克服するためには、若者を活動に巻き込み、担い手としての力をつけ、団体にマッチング（派遣）し、協力して活動を運営していくことを支える、という仕組みが必要である。
内 容	（ボランティアの機会）森づくり活動を、年間を通じて開催、大学生、若手社会人などを中心に 2,000 人を活動に呼び込む （若者トレーニングプログラム） 若者向けトレーニングプログラムの実施 4 回開催 （団体向け） 団体向け「若者と上手く活動するための研修」を実施 1 回開催 若者とのマッチング団体のフォローアップを行う

	モデル事例としての事例紹介マニュアル作成
参加者	ボランティアの機会を増やす：2000人が活動に参加 若者向けトレーニング：若者14人が参加。新規若者森づくり団体3団体が結成 団体向け：2回開催。10団体が参加
場所	益子町及び県内各地
事業目標と成果	<p>(1) 29年度に達成したい成果</p> <p>【活動・成果の持続性】 団体内にプログラムの仕組みが構築されることで、効果的に、継続的に事業を実施することができる。また、成功事例が生まれることで、本事業に参画を希望する団体が増え活動が広がる。各団体が、若者を募集する力、若者と協力して活動する力を高め、自力で若者との活動を展開できるようになる。</p> <p>【団体の自立】</p> <p>① 若者向けの広報力が高まることで、ボランティアの安定確保ができる。それにより Fee for Service（作業の対価）を得るために必要な、安定した作業計画作成、作業受注につながる。</p> <p>② 団体会員の増加 協力団体には団体会員となってもらい、受取会費が増える。20,000円×15団体が毎年継続して会員になってくれるように関係性を築く。</p> <p>③ ファンドレイズの切り口が増える。 これまでの「環境を保全する」という切り口だけでなく、「森林・里山保全団体を支える」という切り口でのファンドレイズを展開することができるようになる。栃木県の森づくり、里山づくりを支える協賛企業を栃木県内の企業から募る。200,000円×5企業。</p>
備考	地球環境基金助成事業

5. 災害からの復旧、復興に関する事業

① 福島県いわき市での、海岸林再生、「苗木 for いわき」プロジェクトへの協力	
期間	平成29年4月～平成30年3月
目的	いわき市の美しい海岸林の再生に向け、市民の力を集め活動を行う。海岸林の清掃や整備、市民の寄付を集め、市民に苗木を育ててもらい植林を行う。
内容	海岸林の清掃、整備は毎月定期的に行う。『苗木 for いわき』プロジェクトは、寄付を集める仕組みづくり、子どもたちや障がい者など、現場での復興支援活動がなかなかできない人達を中心に苗木を育ててもらい、それを海岸に植林する。誰もが震災からの復興に貢献できる仕組みをつくる。活動への参加を通じて、市民の主体的な地域づくり、防災意識の向上を図る。海岸林整備活動を通じたいわき市と避難者の友好関係の構築にも取り組む。

参加者	1,500人
場所	いわき市及び栃木県
備考	フクシマ環境未来基地へ移管。ボランティアは継続。 栃木のクロマツパートナーは継続（4団体）＋再開3団体＋新規1団体

6. バイオマス資源の活用推進に関する事業

① 木クラフト教室、木クラフトを活用した応援会員の獲得

期間	平成29年5月～平成30年2月
目的	木材の有効活用を進めるとともに、地元の木の良さを楽しめる木クラフトを通じて知ってもらえる機会をつくる。
内容	森林、里山の整備で出た木材を活用し、木クラフトキットを制作。木クラフト教室を定期開催するとともに、栃木県森づくり応援寄付と連動した木クラフトキットを制作。
参加者	
場所	栃木県内
事業目標と成果	

7. 若者の自立支援団体と連携による、人と緑を育む森づくり事業

① 若者自立支援団体向けの日帰り活動企画運営

期間・時期	平成29年4月～平成30年3月
目的	若者支援団体を利用する若者たちの力を環境保全活動に繋げる。参加した若者たちが力をつけ、視野を広げられるプログラムとする。合宿型の良さを活かしたプログラムを構築。
内容	栃木県若年者支援機構の集中訓練プログラムとして3日×2回実施する
参加者	7人×3日×2回＝42人 5月、10月
場所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上） 環境保全活動の、自立支援的効果のまとめ、検証、ノウハウ化

② サポステ短期合宿プログラム事業	
期間・時期	平成 29 年 4 月 ～ 平成 30 年 3 月
目 的	若者支援団体を利用する若者たちの力を環境保全活動に繋げる。参加した若者たちが力をつけ、視野を広げられるプログラムとする。合宿型の良さを活かしたプログラムを構築。
内 容	栃木県若年者支援機構の集中訓練プログラム合宿として 2 回実施する
参 加 者	7 人× 4 回=14 人 ①4 月 ②6 月 + 秋 2 回
場 所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上） 環境保全活動の、自立支援的効果のまとめ、検証、ノウハウ化

③ 子どもの貧困対策(日帰り)プログラム事業	
期間・時期	平成 29 年 4 月 ～ 平成 30 年 3 月
目 的	子ども食堂や無料学習塾を利用する低所得者層の親子を対象にして、自然体験プログラムを受け入れる。
内 容	栃木県若年者支援機構と協働し実施
参 加 者	10 人× 回= 秋以降実施決定
場 所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上） 環境保全活動の、自立支援的効果のまとめ、検証、ノウハウ化

④ 「みどりの中間的就労訓練プログラム」創出事業	
期間・時期	平成 29 年 4 月 ～ 平成 30 年 3 月
目 的	就労訓練のなかに、自然環境関係の仕事を取り入れることで、就労訓練内容の幅を広げるとともに、モデル事例として内容を蓄積する。
内 容	4 月 第 1 回みどりの中間的就労訓練開発委員会 5 月 外部型 4 日、内部型 2 日 6 月 外部型 4 日、内部型 2 日

	7月 外部型4日、内部型2日 第2回みどりの中間的就労訓練開発委員会 8月 外部型4日、内部型2日 緑のグッズ販売パンフレット完成 9月 外部型4日、内部型2日 10月外部型4日、内部型2日 11月外部型4日、内部型2日 12月外部型4日、内部型2日 1月 外部型4日、内部型2日 2月 外部型4日、内部型2日 3月 外部型4日、内部型2日
参加者	外部型は1ヶ月12人、内部型は1ヶ月10人
場所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	参加した若者の状態変化（元気になる、コミュニケーション力の向上、前向きな意欲の向上、森林、環境への興味向上） 環境保全活動の、自立支援的効果のまとめ、検証、ノウハウ化

8. 国際ボランティアの受け入れを通じた国際協力事業

Conservation Corps プログラムへのアジア人ボランティアの受入。計4名。

① Green Asia Partnership プロジェクトの支援	
期間・時期	平成28年5月 ～ 平成29年3月
目的	昨年度1～2月にインターンで働いていた Jessa（フィリピン）の関わる活動、Advocacy, Restoration and Research の支援と通じて、フィリピンの活動との連携。 (Jessa は大木本と EarthCorps で働いていたメンバーの一人)
内容	Green Fiesta プロジェクトへの寄付を呼びかけ、日本でもプロモーションを行う。 フィリピンの森、環境の現状を知ってもらう機会にもいかす。 寄付を贈呈し、レポート作成。 必要に応じて協力する。
参加者	ボランティアに寄付を呼びかける。
場所	明在庵及びプロジェクトサイト
事業目標と成果	寄付額 390,000 円

9. 若者の社会貢献に関する調査研究事業

① 米国 Conservation Corps に関する調査研究報告書の制作

期間・時期	平成 28 年
目 的	今後の Conservation Corps プログラムの発展に必要な参考資料となる米国 Conservation Corps の調査研究を行う。
内 容	研究成果を、運営マニュアルにまとめる。大木本が EarthCorps で得た知見をマニュアルにいかす。マニュアルは冊子にして、配布、ダウンロードできるようにする。
場 所	事務局
備考	JCCN 協議会で実施。

10. ソーシャルプロモーション事業

① 会報誌の発行・ボラ募集情報の発行	
期間・時期	会報：4月、7月、11月、1月（年4回発行） 原稿締切：各月15日、 発送日：最終週金曜日
目 的	環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corps に関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。環境分野で活動する人のインタビューなども記事とし、読み物としての面白さも高める。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動、近況報告 ・研究、論文の発信 ・参加者募集や関連情報の発信
受 益 者 数	会員及び協力団体、発行部数 80 部程度
場 所	事務局

② メールマガジンの発行	
期間・時期	毎月 1 日発行
目 的	環境保全活動の必要性、若者の活躍、想いを広く社会に発信する。共感をひろげ、応援いただく方を増やす。Conservation Corps に関する情報も発信し、プログラムの意義を広く伝える。参加者募集などの広報としても。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・活動、近況報告 ・参加者募集や関連情報の発信 ・寄付やネットのできる応援などの呼びかけ強化
受 益 者 数	メールマガジン購読者数 250 人
場 所	事務局

③ ホームページの管理、更新	
期間・時期	通年 毎週 1 回更新
目的	タイムリーな情報発信と、活動報告、ボランティア募集等幅広く。ボランティア募集、寄付募集ページの改訂は 6 月まで。その他のページは 8 月中旬までに完成。
内容	・活動、近況報告 ・参加者募集や関連情報の発信 ・若者よ森へ出よう！HP
受益者数	ホームページ閲覧者数
運営人数	ホームページ更新：神、(大木本)
場所	事務局

④ その他のサイトの管理、更新	
期間・時期	通年
目的	タイムリーな情報発信と、活動報告、寄付のやりとりなどを幅広く行う。
内容	・CANPAN (CANPAN ペイメント含む) ・Links for GOOD ・Gooddo ・しえあわせ Web ・Just Giving ・かざして募金 ・ファンダムビレッジ ・Yahoo! ネット募金 ・おかげ様しあわせプロジェクト
受益者数	ホームページ閲覧者数
運営人数	ホームページ更新：大木本
場所	事務局

⑤ インターネットを使ったボランティア広報強化	
期間・時期	通年
目的	タイムリーな情報発信と、対応を通して、多くのボランティアに呼びかける。
内容	・ボランティアプラットフォーム ・とちぎのエコもり ・CANPAN ブログ ・他のサイトも検討を行う
受益者数	ホームページ閲覧者数

運営人数	ホームページ更新：神
場 所	事務局

⑥ 講演講師、研修講師の派遣	
期間・時期	声をかけていただいた中で判断。社会の役に立てる内容であれば基本的に受けていく。

⑦ シンポジウムの開催	
期間・時期	年数回
目 的	「若者と環境」、「グリーンカラージョブ」、「Conservation Corps」のいずれかの内容で、活動の必要性等を発信する。
内 容	Conservation Corps プログラムの報告会以外に、取り組みについて発信できるようなシンポジウムを開催する。
受 益 者 数	50人
場 所	宇都宮市内（ぼぼらを想定） CC 報告会、若者と団体マッチング事業に平行して行う。

その他

ファンドレイズイベントの開催	
期間・時期	12月
目 的	活動を持続的、発展的に行うための財政基盤を強化するために、ファンドレイズの新しい仕組みをつくる。
内 容	米国 EarthCorps のファンドレイズイベントを参考に、有効なイベントを作りこむ。 5月は EarthMonth を切り口に入会キャンペーンを強化。 12月 は寄付月間を切り口に、他環境保全団体と協力したファンドレイジングイベントを行う。（環境 RUN+シンポジウム型報告会）
場 所	宇都宮市内